



施設だより

ひこね市文化プラザ ☎26-8601 FAX 26-8602
4月の休館日：6月・13月・20月・27月

- 4月 4月24日(金) 19:00～ **2回シリーズ**
自由 ひこね音楽夜話「クラシック事始」
第1話 ピアノから見る音楽の歴史
- 5月 5月8日(金) 19:00～
自由 山下洋輔 ニュー・カルテット
5月21日(休) 19:00～
自由 増尾好秋・岡安芳明・井上陽介
ダブルギター・スーパートリオ
- 6月 6月4日(木) 19:00～
自由 金亀亭落語ライブ 桂ざこば一門会
6月12日(金) 19:00～ **2回シリーズ**
自由 ひこね音楽夜話「クラシック事始」
第2話 よーい！ハイドン、もっと
モーツァルト、だからブラームス♪
6月20日(土) 16:30～
自由 みずほ文化センター公演
若州人形座「はなれ替女おりん」
- 7月 7月20日(月祝) 14:00～
ブロードウェイミュージカル
「フロッグとトード～がま君とかえる
君の春夏秋冬」
指定 1階席大人5,800円、2階席大人4,800円
子ども(1・2階共通) 1,500円
※セット券(大人・子ども) 各500円引き
【4月5日(日)発売開始】
7月24日(金) 19:00～
東京銘曲堂コンサート
自由 3,500円(当日500円増) 【4月26日(日)発売開始】
7月29日(木) 18:30～
キエフ・クラシック・バレエ
「白雪姫」全2幕
指定 1階席5,000円、2階席4,000円
【4月26日(日)発売開始】

ひこね市民大学講座

- 第1講 7月4日(土) 14:00～
朝原宣治さん(北京オリンピック銅メダリスト)
- 第2講 7月18日(土) 14:00～
神田鯉風さん、神田陽司さん(講師)
- 第3講 9月5日(土) 14:00～
童門冬二さん(作家)
- 第4講 9月27日(日) 未定
枝廣淳子さん(環境ジャーナリスト)
- 第5講 10月10日(土) 14:00～
金子勝さん(慶應義塾大学経済学部教授)

彦根城博物館 ☎22-6100 FAX 22-6520
4月の休館日はありません。
※14日(火)～同16日(木)は展示替えのため、展示室を一部閉室しています。

開館時間 8:30～17:00 (入館は16:30まで)

4月17日(金)～5月19日(火)

「国宝・彦根屏風」

近世初期風俗画の傑作、国宝彦根屏風を特別公開します。



▲国宝・彦根屏風

ギャラリートーク

「国宝・彦根屏風」

4月18日(土) 14:00～15:00

解説：本館学芸員 高木 文恵
※事前申し込みは不要です。当日、館内講堂にお集まりください。

観覧料が必要です

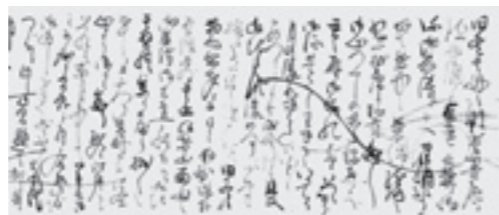
常設展の名品

4月15日(水)～5月18日(月)

井伊直弼書状

重要文化財

世継ぎとなった直弼が、従兄弟の福田寺住職に江戸での生活の様子を伝えた手紙。



☆料金：全席自由 4,000円【4月19日(日)発売開始】
※1講座だけの購入はできません。
※未就学児の入場はお断りします。

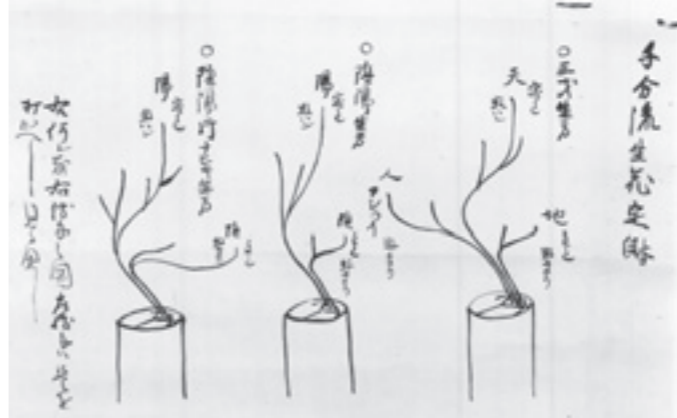
託児サービス・臨時バスの運行については、公演ごとに異なります。詳しいことは、お問い合わせください
チケット・入会のお申し込み、お問い合わせは
チケットセンター ☎27-5200 (9:00～19:00)

とまきの玉手箱

博物館からのメッセージ

井伊直弼の花道研究

幕末の大老、井伊直弼は、文武諸芸に通じる人物としても有名です。「埋



▶千分流生花定脈図 井伊直弼筆

木舎」で暮らした青年時代(17～32歳)には、茶道をはじめ国学・禅・居合・兵学などに没頭し、それらの研さんは政治の世界に身を置くようになっても続けられました。

花道もそのひとつです。しかし、直弼の花道については、これまでほとんど知られていません。ほかの分野ほど資料が残っていないためです。直弼は「千分流」という花道を学んでいたようで、自筆の伝書写しや、花の生け方の図などがわずかに残っています。

今は千分流という名は耳にしません。現存する伝書に載る相伝系図によると、千利休を祖とし、千家4代の宗左の門弟「柳士軒宗葉」が「千分流」を称し、以来、江戸後期まで継承されてきました。「千分流」とは、千家から分かれた流派という意味のようです。つまり、直弼は茶道千家の流れに属する花を学んでいたことがわかります。

いけばなは、すでに室町時代に、書院という格の高い部屋の座敷飾りとして形式が整えられていました。当時のものは草木を花瓶に挿し立てる生け方で、「立花」と呼ばれました。桃山時代になり、千利休が「侘び茶」を成立させる中で、茶室に生ける「茶の湯の花」が発展します。特に利休は、客をもてなす趣向として花を用いました。

さて、直弼の学芸研究の方法は、師から教わるだけでなく、先学の著作をひもとき、その源流を探るといった特徴がありました。花道においても、直弼は源流ともいふべき利休の趣向を研究しています。直弼の茶の湯の著作に、先人の逸話を集めた「閑夜茶話」がありますが、そこに利休の花の逸話が多数含まれます。著名な「朝顔の逸話」もそのひとつです。

ある人物が利休の家で朝顔が見事に咲いたことを聞き、それを見た朝顔を期待して訪ねたが、庭に朝顔は見あたらぬ。不審に

思い、茶室に入ったところ、床の間に見事な一輪を見つけた。直弼は、この客を利休の茶の湯の師である武野紹鷗としています。従来、これを豊臣秀吉とする説が多いことは直弼も承知の上で、秀吉とする説に疑問を投げかける注釈を書き込んでいます。その論拠はよくわかりませんが、膨大な書物を読んだ末に導き出されたのでしよう。

直弼の諸芸研究の姿勢は、先学の研究を学んだ後、そこから「直弼流」ともいふべき流儀を導き出すというものでした。さらに、それを書物にまとめ、周囲の人々へ教え伝えるのを好んだようです。花道についても、断片的な資料をつなぎ合わせることで、この傾向を見て取ることができそうです。(彦根城博物館学芸員 野田浩子)

写真の作品は、常設展「ほんものとの出会い」で、4月15日(水)～5月18日(月)まで展示します(期間中無休)。